

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点  
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」  
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2020年 4月 22日 提出

1. 研究課題名	
18世紀の上方・江戸における出版と都市文化の関連性 (英文表記: The Relationship Between Publication and Urban Culture on Kamigata and Edo in 18 Century)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな) いしがみ あき	所属機関・職名
石上 阿希	国際日本文化研究センター・特任助教
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付けてください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
鈴木桂子(すずきけいこ)	立命館大学衣笠総合研究機構・教授
加茂瑞穂(かもみずほ)	立命館大学文学部・非常勤講師
金子貴昭(かねこたかあき)	立命館大学衣笠総合研究機構・准教授
倉橋正恵(くらはしまさえ)	立命館大学アート・リサーチセンター・客員協力研究員
山本真紗子(やまもとまさこ)	立命館大学文学部・非常勤講師
竹村さわ子(たけむらさわこ)	ライデン大学・博士後期課程院生
高須奈都子(たかすなつこ)	立命館大学アート・リサーチセンター・客員協力研究員
ローレンス・マルソー	立命館大学アート・リサーチセンター・客員協力研究員
ミシェル・キューン	安田女子大学・助教

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>本研究では、江戸中期に京都を拠点として活躍した浮世絵師である西川祐信(1671~1750)に着目し、18世紀上方出版文化から江戸の都市文化へと続く知の連環を考察する。</p> <p>祐信は、上方だけではなく、江戸の絵師にも大きな影響を与えた絵師であり、多様な出版文化の展開を担った重要な人物であるにも関わらず、これまで十分な研究がされてきたとは言いがたい。本研究は、祐信という絵師を核とした知的活動の展開と上方文化の江戸流入を明らかにすることを目的とする。</p>

研究活動の一つとして、毎月 1 回 アート・リサーチセンターにて西川祐信の着物雛形本『正徳雛形』の研究会を開催。染織、文学、美術など様々な研究者をメンバーとして『正徳雛形』に記載された各雛形を分析し、模様の典拠となった文学、演劇との関連性を考察する。

#### 5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

毎月 1 回「西川祐信雛形本研究会」を開催し、『正徳雛形』の翻刻・語釈を行った。2019 年度は全 12 回(第 59～70 回)開催。具体的には着物の雛形に付された文章を翻刻し、語釈を行うことで着物の色や模様を再現し、文化的背景を考察する。発表後は、翻刻内容をもとに、色や模様のインデックス化を行っている。

また、研究代表者の石上とメンバーの加茂が監修をつとめた展覧会「女・おんな・オンナ—浮世絵にみる女のくらし」(2019 年 4 月～6 月、渋谷区立松濤美術館)を開催し、研究会の成果を広く発信した。

2019 年度で全ての翻刻・語釈を終了した。またこれまでの研究会で話し合われた問題点について長崎巖教授を招聘し、質疑応答を行う研究会を 2020 年 3 月 18 日に開催した。

2020 年度は出版物刊行にむけ、翻刻・語釈の見直し作業・論文執筆を開始する。

#### 6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

##### (1) 著書

##### (2) 論文

- ・石上阿希「錦絵は何をうつしたか」、単著、2019 年 4 月、渋谷区立松濤美術館『女・おんな・オンナ—浮世にみる女のくらし展図録』、pp.6-10、無/Ishigami Aki, “What do Ukiyo-r Repriduce?”, in Life of Japanese Women in Ukiyo-e, 2019-04, The Shoto Museum of Art
- ・加茂瑞穂「浮世絵にみる装い」、単著、2019 年 4 月、渋谷区立松濤美術館『女・おんな・オンナ—浮世にみる女のくらし展図録』、pp.14-16、無/Kamo Mizuho, “”, in Life of Japanese Women in Ukiyo-e, 2019-04, The Shoto Museum of Art

##### (3) 研究発表等

- ・石上阿希「浮世に描かれた女、描かれなかった女」、2019 年 4 月 14 日、/Ishigami Aki, “Women Who Were Depicted/Not Depicted in Nishiki-e Colored Woodblock Print”, 2019-04-14, The Shoto Museum of Art
- ・加茂瑞穂「『正徳ひな形』を「読む」—雛形本研究会報告」、2019 年 8 月 6 日、第 1 回絵入百科事典研究会、国際日本文化研究センター、無/Kamo Mizuho, “Reading *Shōtoku hinagata*: Report by Seminars for the Study of the *Shōtoku hinagata*”, 2019-08-6, International Research Center for Japanese Studies, First Illustrated Encyclopedia Seminar

##### (4) 主催したシンポジウム・研究会等

- ・西川祐信『正徳雛形』研究会、第 59～70 回(2019.4.23、5.30、6.25、7.30、8.30、9.20、10.28、11.18、11.23、2020.1.27、2.20、3.18)、立命館大学 ARC 会議室

##### (5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

##### (6) 受賞学術賞

##### (7) 科学研究費助成事業

- ・「17～18 世紀の京都における「知」の大衆化—絵入百科事典を中心として—」、基盤(C)、2018 年 4 月—2022 年 3 月、代表

##### (8) 競争的資金等(科研費を除く)

##### (9) その他

- ・展覧会監修「女・おんな・オンナ—浮世にみる女のくらし展」、会期:2019 年 4 月 6 日～5 月 26 日、場所:渋谷区立松濤美術館、入場者数:9,607 人、監修:石上阿希、加茂瑞穂、山本ゆかり/Life of Japanese Women in Ukiyo-e, 2019-04-06—05-26, The Shoto Museum of Art
- ・コラム「デザインを階層で分類する—西川祐信画『正徳雛形』」、「ふみ」12 号、国文学研究資料館、2019 年 6 月